

[076_04]法政研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/16769>

出版情報：法政研究. 76 (4), 2010-03-05. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：



九州大学教授 藪野祐三 先生

藪野祐三先生は一九四六年六月二日に大阪府で生まれ、一九六九年に大阪市立大学法学部法学科を卒業後、同年に同大学同学部の助手に着任された。神谷不二教授らの指導の下、政治学理論および国際政治学理論を研究された。その後、一九七四年に北九州市立大学法学部の専任講師に着任された。同大学助教、教授を経て、一九九二年に九州大学法学部の教授（政治学担当）として着任され、今日に至っている。またその間、一九八八年には大阪市立大学から、法学博士の学位を授与されている。

藪野先生は、政治学や国際政治学における理論研究から出発なさり、その後、「先進社会」のイデオロギー分析や日本政治の現状分析を経て、地域政治を「ローカル・イニシアティブ」や「ローカル・デモクラシー」などの独自の観点で捉えるなど、対象と関心を拡大させてこられた。藪野先生は「多産」で、著書は十数冊におよぶ。なかでも法律文化社から刊行された「先進社会シリーズ」七冊（増補版を入れれば八冊）は、二十年にわたり書き継がれた、日本の政治学において例を見ない単著の「シリーズ」作品である。

学会活動においては、日本政治学会や日本比較政治学会など、複数の学会で理事などの役員を歴任された。また二〇〇六年に福岡で開催された世界政治学会（IPSA）では、現地実行委員会の中心メンバーとして、大規模な国際学会を市民参加の下に成功に導かれたことは、特筆すべき点であろう。

学部や大学院における教育でも、藪野先生は活躍された。法学部専門教育の政治学関連の講義や演習はもとより、全学教育なども積極的に担当になり、法学部において長らく、もつとも講義を担当している教員の一人であった。大学院においても、多くの研究者を育成され、また多くの社会人大学院生も熱心に指導された。さらに英語コース（CSPA）の設立と運営の中心となり、法学府の国際化にも大きな貢献をなされた。

藪野先生は「多くの人々に理解してもらえる研究」の大切さを強調され、研究成果を社会に還元される活動にも積極的にあった。北九州市をはじめとする多くの自治体の審議会委員などを歴任され、また一般市民を対象とした講演会活動や、マスメディアを通じた活動なども活発におこなわれた。藪野先生の軽妙なユーモアを交えた語り口は、学生はもとより、大学外にも多くの「藪野ファン」を産み出した。

衰えをしない好奇心と探究心で、退職後も、研究や教育を、お元気に続けていただけることを願っている。藪野先生、ありがとうございました。